

台湾、香港、中国といった中華圏に共通する最大の祝日は春節だ。中華圏では伝統的に旧暦で正月をお祝いする。台湾では旧暦の大みそから旧暦の1月3日までの4

タイ、マレーシア、シンガポールといった東南アジアの国々も、主に華僑と言われる中華系の富裕層が青森リンゴの購買層になっている。

春節は、青森リンゴに

5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

41

日間が祝日になり、前後の振り替え休日を含めると、2016年では6日間が休みとなった。中国は更に1日多い7日間の大型連休だ。

とって最大の商機で、輸出量が最も伸びる時期に当たる。中華圏の人々は旧暦のお祭りに、果物籠を友人や親戚に贈る習慣があり、高級リンゴとして評価されている青森リンゴは贈答用にもてはや

主に中華圏の国々だが、

ンゴは贈答用にもてはや

輸出時期

中華圏は春節が商機

されている。何とって、けに深紅の青森リンゴがも春節の真っ赤な飾り付とてもマッチしている。



台湾では、きらびやかな「年節飾品」を飾って春節をお祝いする (台湾観光局提供)

春節で困るのが、太陰暦で月日が決まるので、毎年日にちが動くことだ。最近の旧正月は、14年(1月30日)、15年(2月19日)、16年(2月8日)、17年(1月28日)、18年(2月16日)となっている。

これまでの傾向から、旧正月が遅いほど青森リンゴの売れ行きが良い。日本の年末年始の贈答用が一段落したあとに、大きな輸出需要が待っている格好だ。それからすると、17年は早く春節を迎える分、販売期間が短くなるので、売れ行きが心配だ。

春節以外の祝日では、清明節(4月、春のお墓参りの日)、端午節(6月、3大節句で2〜3連休)、中秋節(9月、旧暦の8月15日、3大節句)、国慶節(10月、建国記念日。台湾は一日だが、中国では7連休)などがある。

中でも中秋節は3〜4連休になり、月餅を食べる習慣がある。日本からはナシやブドウなどが出回り、果物も人気だ。リンゴも相手国の祝日にはまだまだ消費拡大のチャンスがあると思われる。(県りんご輸出協会事務局長 深澤守)